

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—オンライン CIS 活動報告(ベトナム)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門

特任准教授(常勤) 勝又 美穂子

2020年12月14日～21日の期間でベトナムのハノイ、ハイフォン、そして日本を結んで、初のオンラインカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。本年度は新型コロナの影響で海外へ渡航出来ないことから、プログラムの目的や学習効果は最大限、現地実習と同様に据えてオンラインCISへと変更になりました。ベトナムCISには大阪大学の外国語学部2名、工学研究科1名、ハノイ工科大学(HUST)の経済・管理学部2名と機械工学部2名の計7名の学生が参加しました。

本学学生は6月から8回にわたり実施された事前研修で企業、文化、CIS課題等について学び、準備をしてきました。オンラインCIS開始後2日間の事前研修では、アイスブレイキングを目的としたコミュニケーションの研修、両国紹介、5S、3現主義などを含むものづくり日本企業の強み、溶接基礎知識、CIS実習テーマの検討などを学生が主体となり進めました。12月16日からはベトナム・ハイフォンにあるIHI Infrastructure Asia(IIA)とオンラインで接続し、企業紹介と、3回に亘る社員とのインタビューやアンケートを実施しました。学生は実習テーマである「労働意欲における課題と対策」に関して、企業幹部・スタッフ・ワーカーへ多くの質問を準備し、インタビューに臨み、限ら

れた時間でしたが、熱心に意見を聞きました。

最終日の12月21日はオンラインで最終報告会を開催しました。最終報告会には、IIAの佐々木社長、山本工場長、HUSTのDr. Cuong(経済管理学科長)、Prof. Hanh(溶接工学金属技術学科長)、阪大の清水教授(言語文化研究科)、勝又特任准教授(接合科学研究所)、更にCISには参加していない本学の学生等計21名が参加しました。A・B両チームからは課題に対して、コミュニケーション、仕事環境、教育、評価制度、採用方法等様々な観点からの改善提案が行われました。佐々木社長からは一つ一つの提案に対し、実現可能性を踏まえた丁寧なコメントを頂戴し、総括として「短く限られた時間であったが、沢山の、またユニークな提案もあり、今後内部で検討していきたい」とのお言葉がありました。

本年度より初の取り組みであったオンラインCISへは大きな不安がありましたが、学生達はオンラインでもしっかりと異文化交流を行い、工夫してチームディスカッションに臨むことで、グローバルチームワークの難しさや楽しさについて、そしてグローバル企業の活動や困難について多くを学ぶことができました。学生にとり、この経験が将来の実践経験に大きな意義として繋がることを確信しています。新しい形態の取り組みとして大きな一歩となりました。

